

マシン油再考

基本はクミカのアタックオイル!

有機農産物に
使用できます。



かんきつ・茶のハダニ類、カイガラムシ防除に

クミアイ アタックオイル®

農林水産省登録 第11851号

特長

アタックオイルは防除効果と葉害面からパラフィン化率、粘度、スルホン化価等物理化学的性質に注意を払い、高度に精製した理想的なマシン油乳剤です。

各種薬剤に抵抗性を発達させた害虫に対し安定した効果を示します。

天敵に対する影響が少ないため、リサージェンスの心配がありません。

人畜毒性、魚毒性、作物残留性が低く安全に使用できます。

新しい缶で
さらに使いやすく
なりました。



ハダニ類、カイガラムシ防除に

クミアイ アタックオイル®

有効成分：精製マシン油・・・97.0%
 人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指すという通称）
 危険物：第4類・第3石油類

■適用害虫および使用方法

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10アール当り使用液量(ℓ)	使用時期	本剤の使用回数	マシン油を含む農薬の総使用回数	使用方法
かんきつ	カイガラムシ類	100～200倍	200～700	6～10月	-	-	散布
		60～80倍		12～3月			
	ミカンハダニ	100～400倍		4～10月			
		60～80倍		12～3月			
びわ	ミカンサビダニ	100倍	200～700	—	-	-	散布
	ミカンキジラミ	80倍		生育伸長期			
りんご	ハダニ類	50～100倍	200～700	果実収穫後～開花前	-	-	散布
		50倍		芽出し直前、直後			
		100倍		展葉期（発芽後2週間まで）			
もも	カイガラムシ類	30～50倍	200～700	展葉期（発芽後3週間まで）	-	-	散布
		200倍		—			
ネクタリン	モモアカアブラムシ	30倍	200～700	発芽前	-	-	散布
おうとう	ウメシロカイガラムシ	—					
なし	カイガラムシ類	50倍	200～700	発芽前	-	-	散布
かき	フジコナカイガラムシ	—	200～700	発芽前	-	-	散布
小粒核果類・くり	カイガラムシ類	—					
いちご・なす	ハダニ類	100～150倍	100～300	—	-	-	散布
		カンザワハダニ	50～100倍	200～400			
	チャトゲコナジラミ	100倍	4～9月				
	クワシロカイガラムシ	100～150倍	1000	10～3月			
つばき類・げっけいじゅ	カイガラムシ類	100倍	200～700	—	-	-	散布
さんしょう(葉)	ミカンハダニ	150倍	200～700	5～10月	-	-	散布
さんしょう(果実)	—						
アテモヤ	ハダニ類	100倍	200～700	春剪定直後	-	-	散布
パパイヤ				生育期～果実肥大			
マンゴー				緑枝硬化期から出蕾期			
げっけい				生育伸長期			
パッションフルーツ	ハダニ類	80倍	200～700	収穫後から開花期（発蕾期）	-	-	散布
レイシ	コウノアケハダニ	100倍		—			

作物名	適用農薬名	使用量	使用方法
かんきつ	ベノミル剤、マンネブ剤、チオファネートメチル剤	25～50mlℓ / 散布液10ℓ	添加
なし	ベノミル剤	—	本剤でベノミル剤を20倍に希釈し、塗布する

作物名	使用目的	希釈倍数	使用液量(ℓ)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	マシン油を含む農薬の総使用回数
温州みかん(苗木)	花芽抑制による樹勢の維持	60～80倍	200～700ℓ / 10a	11～1月	-	立木全面散布又は枝別散布(ジベレリン 2.5 ppm液に加用)	-
温州みかん				11～1月但し、収穫後			
かんきつ(温州みかん、長門ユズキチ(無核)、すだち、平兵衛酢、かぼすを除く)				収穫後～3月			

■使用上の注意

- 散布液調製後は速やかに使用してください。
- 高温時の散布は葉害を生じやすいので、日中をさけ朝夕の涼しい時に所定濃度範囲の低濃度で散布してください。
- 散布直後の降雨は本剤の効果が低下するので、特に冬期散布においては好天の続く時に使用してください。
- 石灰硫黄合剤、ホルド一液等のアルカリ性薬剤やジチアノン剤、TPN剤等の水和剤及び銅剤との混用はさけてください。
- ジベレリン剤と混用で使用する場合は、ジベレリン剤はマシン油乳剤に加用の登録のある剤を使用してください。
- 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。

かんきつに使用する場合

- 散布後、葉（特に旧葉）に油浸斑を生ずることがありますが、日数の経過に従って消失し、落葉を助長することはありません。
- かんばつ等で樹勢が弱っている場合は使用しないでください。（葉害）
- 3月散布はなるべく早めに使用してください。この場合、石灰硫黄合剤との混用はさけてください。
- ジチアノン剤との近接散布は果実に薬害を生ずるおそれがあるので、さけてください。
- ヤノネカイガラムシ第一世代防除時期ではジメトエート剤との混用はさけてください。（落葉助長）
- 展着剤として使用する場合は、混用しようとする薬剤を水で希釈した後、本剤を加えよく攪拌してください。

茶に使用する場合

- 摘採前4週間は使用しないでください。
- クワシロカイガラムシを対象とする場合は、散布量を十分にし、樹幹がよく濡れ、特に株元に十分かかるようにしてください。4月～9月の使用は、摘採直後の幼虫発生期に行ってください。

りんごに使用する場合

- 芽出し直後の散布は時期を失わないようにしてください。遅れて散布すると葉の周囲が褐変することがあるので、使用濃度に注意してください。

いちご、なすに使用する場合

- 幼苗期の散布は薬害を生ずるおそれがあるのでさけてください。また、連続散布する場合の散布間隔は7日間以上の間隔をあげるとともに、過度の連用はさけてください。
- 収穫間近の散布はオイル光を生ずることがあるので留意してください。
- ハダニ類に対しては速効性が不十分であり、また1回散布では効果が不十分なため、なるべく発生初期に7～10日間隔で繰り返し散布してください。
- いちごに使用する場合は、薬害を生じやすくなるおそれがあるので他剤との混用および近接散布はさけてください。

アテモヤに使用する場合

- 新梢発生時期及び果実着果時期に散布すると薬害を生ずるおそれがあるので使用をさけてください。

食用げっけいじゅの場合

- 食用げっけいじゅには使用しないでください。

レイシに使用する場合

- 新梢伸長期に散布すると薬害のおそれがあるので使用をさけてください。

本資料は2017年9月現在の知見に基づいて作成されております。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。● 防除日誌を記載しましょう。